

世界の扉を開けた“鈴木鎮一”マンガ物語

# 音に心を、音にいのちを

作画：くのけいじ / 原作・構成：新 巳喜男

A5判・ハードカバー / 定価 1,890円 [本体 1,800円+税5%]

幼児が自分の国の言葉を自然に身につけて自由に話せることに着目した鈴木鎮一は、「母語教育法」という、音楽教育の域を超えた人間教育の理念に基づく独特な音楽教育法を編みだしました。

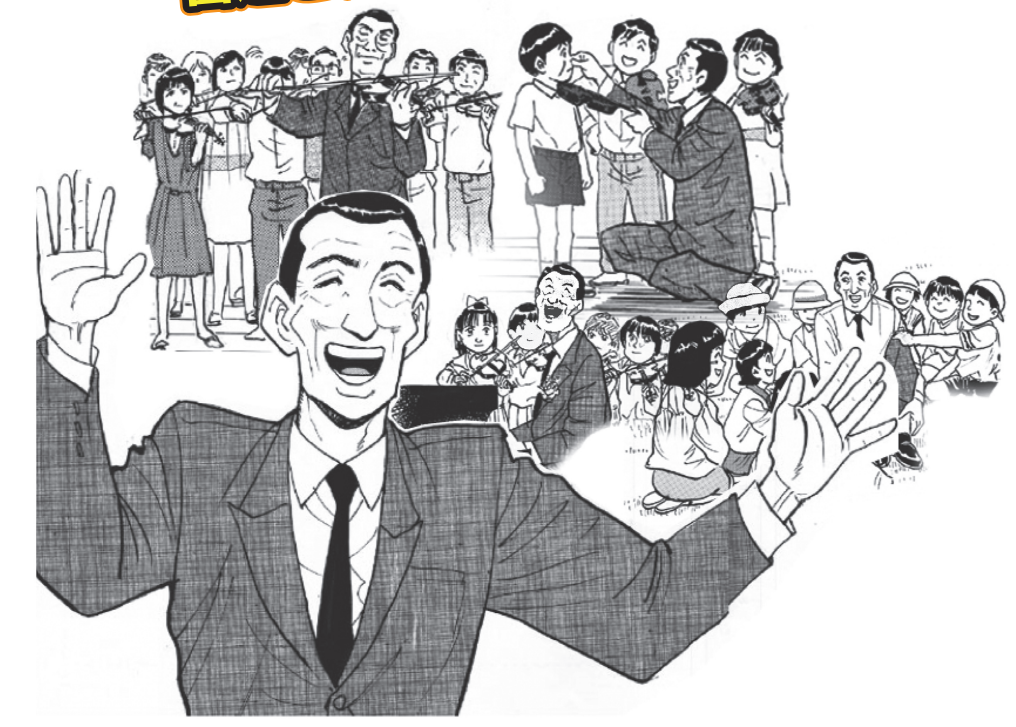
子どもの能力は生まれつきではなく「育つ環境によって育まれる」という、音楽教育の域を超えたこの教育法は、国際的に広く認められるものとなり現在では世界46カ国・約40万人の生徒が「スズキ・メソッド」の教則本を使ってヴァイオリン、ピアノ、チェロ、フルートを学んでいます。



## 幼少時からすぐれた感性を育てる『スズキ・メソッド』創設者、鈴木鎮一の奮起とアイデアとエネルギーに満ちた生涯を漫画化!

才能教育研究会の季刊誌「Suzuki Method」に7年間連載されたあのマンガを単行本化! 新たに21本のコラムを書き下ろし!

鈴木鎮一(1898-1998)  
ドイツで名教師クリングラーにヴァイオリンを学び、日本に帰国後、演奏家として活動。また帝国高等音楽院で教授を務めて、その後の日本を代表するヴァイオリニストたちである、江藤俊哉、豊田耕兒、小林武史・健次、鈴木秀太郎、諏訪根自子などの優れた音楽家を育てました。1946年に長野県松本市に「松本音楽院」を設立しましたが、これが現在の公益社団法人「才能教育研究会」の母体となっています。



1958年  
ソ連のレオニード・コーガンの独奏会が松本で開かれた。

演奏会後、松本の生徒たち100名が同じ舞台上でコーガンの前で演奏した。

演奏はコーガンを大変喜ばせた。鎮一は指導法を見てもらおうとステージへ上がった。

昭和26年夏 長野県諏訪

最初に子どもたちを2組に分け、左右に向かい合わせて右側からヴァイオリンの協奏曲イ短調を弾かせ始めた。

荷物は牛車に乗せてください。先は長いですよ。

初めての夏期学校が、夏の雄大な大自然の中で開催された。皆、夜行列車、汽車、バスと乗り継いで、全国から集まってきた。

子どもたちが疲れて集中力が欠けたと見ると、すかさずゲームなどに切り替えた。

じゃ、休憩終わり、バツハのドッベルを合奏しよう!

私、第一ヴァイオリンやります。

私も。

みんな、第一ヴァイオリンかい?

第一ヴァイオリンも第二ヴァイオリンがあつて初めて合奏の美しさが出るんだよ。

ちょっと小休止だ。ハンカチ落とししてもいいか?

わーい!

ホテルから迎えに来るはずですが!

山登りだね。

終点の清水橋ここから歩いてすね。

レッスンは、しかつめらしい雰囲気ではなく、常に子どもたちの興味を引く内容だった。

### もくじ紹介

- 第①回 アインシュタインの教え
- 第②回 才能教育 誕生日前夜
- 第③回 才能教育運動、スタート
- 第④回 激動の日々
- 第⑤回 運動の拡大と定着
- 第⑥回 思いを伝える印刷物
- 第⑦回 夏期学校、はじめの一步
- 第⑧回 偉大な心理学者
- 第⑨回 第1回卒業式に向けて
- 第⑩回 海外の芸術家たちとの交流
- 第⑪回 いよいよ開催、第1回全国大会
- 第⑫回 卒業テープに託した思い
- 第⑬回 指導者研究会、始まりの頃
- 第⑭回 太平洋を渡った映画フィルム
- 第⑮回 アメリカの衝撃
- 第⑯回 世界の扉を開けて
- 第⑰回 永遠の輝きを求めて
- 第⑱回 若き日の鈴木鎮一
- 第⑲回 船出への準備
- 第⑳回 井深大さんとの豊かな交流
- 最終回 音に心を、音にいのちを